

正副議長定例記者会見の質疑（令和4年9月定例会）

日時：令和4年10月5日（水）13：00～13：22

場所：観光スポーツ文教警察委員会室

記者会見を行う渡部議長



記者会見を行う古川副議長



（NHK：幹事社）

定刻となりましたので、正副議長の記者会見を始めさせていただきます。

なお、議長は次の公務がありますので、記者会見の時間は13時20分までとさせていただきます。まず初めに、議長からご挨拶をお願いします。

（議長）

本日、9月定例会を閉じましての定例記者会見でございますので、どうかよろしくお願いたします。さて、今議会では、9月補正予算において、高齢者施設等での新型コロナウイルス感染対策の継続・強化やコロナ禍等で厳しい経営環境にある中小企業者への支援、アフターコロナを見据えた海外展開の基盤づくりや原油等のエネルギー価格や肥料・飼料価格の高騰を踏まえた農林水産事業者への支援、そして、西日本豪雨災害への対応や大規模災害への備えなど、県政の諸課題に適切に対処できたものと認識しております。

また、県立高校の再編計画案など、その他の県政重要課題についても活発な質疑が展開され、議論が深まったものと評価しております。

以上、簡単ではありますが、冒頭のあいさつといたします。

（南海放送：幹事社）

副議長いかがでしょうか。

（副議長）

はい。私としても、副議長として議長をお支えし、肥料や飼料等の価格高騰を踏まえた支援など、一定の成果をあげることができたものと考えております。

どうかよろしく申し上げます。

(NHK：幹事社)

ありがとうございました。続いて弊社からの代表質問です。

先ほど、議長の挨拶にもありましたが、県立高校の再編計画案について、議会でも議論が進められているかと思いますが、その議論を振り返っての所感はどうでしょうか。

また、県民を代表する議会としても、今後、どのような対応が考えられるのか、お聞かせください。

(議長)

はい。この学校再編計画案については、今定例会においても、多くの議員からも質問がなされ、その都度、教育長からお答えいただきました。議員と理事者それぞれの立場で、それぞれの意見がありますが、これからの未来を担う子供たちにとって最適である学校環境を整えていくという目的は一致していると思います。様々な意見がある中で、今回、活発な質疑がなされたわけですが、教育委員会においては、真正面から議論していただいて、地域には厳しいことでも提案する姿勢や、2年かけて各地で再編計画の協議を積み上げてきた自負を強く感じ取ることができました。

ただ、再編計画案について、学校が無くなってしまふ地域からは、存続を求める声が根強くあります。学校は地域活性化の核となる施設ですから、存続を求める地域の思いは理解できるのですが、子供たちの未来のために、学校教育はどうあるべきかの視点で議論することが最も重要でありますから、県においては各地域と今後とも、将来をしっかりと見据えた議論を深めていってほしいと思います。

(NHK：幹事社)

副議長いかがですか。

(副議長)

今年7月に具体的な再編案等が明らかになり、統合対象となった学校の地域の方々から、不安や戸惑いの声があがっていることは承知しておりますし、地域の方のお気持ちは十分に理解しております。しかし、15年後には子供の数が3割程度減少すると言われていた中で、また、地域によっては、更に加速度的に減少することも起こりえる中で、地域の方には、そうした先行きの見通しや子供たちの未来とを視野に入れていただき、理事者においては、地域の方に今回の計画をしっかりと理解していただくように、協議を重ねていっていただきたいなと思います。

(NHK：幹事社)

続いて、質問がある社はお願いします。

(愛媛新聞)

今定例会の委員会において、タブレットやモニターを使用しての議論が始まりましたが、実際やってみての感想や、今後の議会改革ICT化に向けた考えはどうですか。

(議長)

この議会改革は、古川副議長を座長とした議会改革検討協議会において、ICT化について、今定例会では常任委員会等についてもペーパーレス化を実施しました。今後、社会全体でデジタル化が加速していくことが容易に想像できますし、その流れに取り残されないように議会としても、DXの推進を議会改革の柱として掲げ、議会改革検討協議会において、十分に検討を行ってまいりました。そして、各議員においても、タブレットの使用に関する研修を何度も受けて、しっかりと使いこなせるようになってきたのではないのでしょうか。ペーパーレス化については、SDGsの観点からも、今後とも重点的に進めていきたいと思えます。

ところで、副議長は議会改革検討協議会の座長としての所感はどうですか。

(副議長)

議会改革について、今年度に入って、オンラインでの委員会審議を可能とする体制の整備など、時代に即した形で改革を進めてきました。今後とも、この流れを止めることなく力強く進めていきたいと思えます。

(議長)

先ほど私から、議会改革について、ペーパーレス化を中心にお話をさせていただきましたが、議会としては、今後とも、「透明性の高い開かれた議会」を究極の目標に掲げ、改革を進めていきたいと考えております。岡山県議会では年間8回の広報テレビ番組を制作・放送し、県議会の取組について広くアピールされておりますが、本県議会においても、議会の情報発信力を強化するため、CATVにおける県議会の情報発信に取り組むこととし、現在、放映開始に向け準備を進めているところです。議会審議に関する手法だけでなく、議会の情報発信力についても改革を行い、本県議会を身近な存在としてとらえていただけるよう、取り組んでまいりますのでよろしくお願ひします。

(読売新聞)

国葬に対する所感はどうですか。

(議長)

国葬については、内閣設置法における国の儀式として、内閣で閣議決定された国の公式行事として、議会の代表として出席しました。

また、国葬は、47都道府県それぞれの議会から議長、そして、地方6団体や全国の都道府県の知事らが出席され、哀悼の意を表しました。

個人的に印象深かったのが、菅元総理の哀悼を示す弔辞が終わった後、万雷の拍手が起こったことです。長年にわたって苦楽を共にした菅さんの思いがすごく伝わってくる感動的な弔辞で、お別れの会などいろいろ出席させていただいたが、拍手が起こるのは初めてのことで、会場にいた方も思わず感情移入しての拍手だと思いました。

(あいテレビ)

統一教会についてお聞きします。一部の報道等で、政務活動費を使用して統一教会の

イベント等に出席していたとありましたが、議長の見解をお聞かせください。

(議長)

過去、講演等に出席したことはあります。当時の私は、相手方に対して「平和を希求する団体」と認識しておりまして、自身の議員としての見識を深めるために、民間外交に重きを置いていることもあり、団体の講演等に出席しました。私も、統一教会に関する様々な報道について、すべてを把握し、記憶しているわけではありませんし、団体は、あくまで平和を希求する活動を行っていると思っていたのですが、昨今の報道で、団体の実態を知り、認識を改めたところです。

また、政務活動については、繰り返しになりますが、議員としての見識を深めるため、様々な研修や会合に参加しております。その中に統一教会の関連する団体が催したものがあったというものです。

(愛媛朝日テレビ)

議員定数についてお尋ねします。

県から、将来の推計人口について発表がありました。大きく人口減少する予想を踏まえ、議員定数についての、議長の考えをお聞かせください。

(議長)

昨年、議員定数等調査特別委員会を設置して、前議長のもと議論していただきましたが、2060年には現在の約4割程度人口が減ると言われている中で、今後とも、しっかりと県下の人口等の趨勢を見ながら検討をしていくことが重要だと思っております。議会は県民の多様な声をくみ取る役割を果たさなければなりませんので、議員数を一概に減らせばよいとも思いませんし、現時点で、定数に関する明確なお答えはできません。

(愛媛朝日テレビ)

副議長いかがですか。

(副議長)

いたずらに定数を減らすことがいいわけではないと考えます。現状、本県では、法で定められている定数の範囲内に収まってはおりますが、今後の人口の推移でありますとか、デジタル化に向けた技術革新による社会構造の変化等、あらゆる事柄を踏まえながら、しっかりと議論していく必要があると思います。

(愛媛新聞)

統一教会について、改めてお尋ねします。

県議会として、議員と統一教会との関係性について、今後、調査する予定はありますか。

(議長)

今回、統一教会に関するあらゆる報道を受け、議会事務局において、資料が残存する

過去5年間を対象に調査を行いましたが、当該団体が主催する行事へ本県議会議員が公務として出席した事例はありませんでした。ただし、議員個人としての活動に関する状況までは把握しておりません。

(愛媛新聞)

今後、更に調査を深めていくことは考えてはいないのですか。

(議長)

はい。

(NHK：幹事社)

時間となりましたので、以上で正副議長の記者会見を終わります。
ありがとうございました。